

ナルシシズムと車への愛着が攻撃的な運転に与える影響の検討

武田 悠

本調査は、交通事故に繋がる重要な問題である攻撃的な運転に注目し、特に車への愛着、ナルシシズムという2つの要因が及ぼす影響を検討すると共に、その影響過程にどのような認知や感情があるのかを検討することを目的に2つの調査を実施した。

調査Iでは、ダークトライアドと車の装飾、悪意の認知が攻撃的な運転に与える影響を検討するために、運転免許を保有し、月に1回以上運転をする96人(男性49人、女性47人)に対してオンライン調査を行った。アンケート項目として個人の属性や自動車運転状況としては、年齢、性別、運転歴、運転頻度、運転目的、車の所有について尋ねた。また、車の装飾に対する考えや、ダークトライアド傾向を尋ねた他、「対向車がハイビームをつけたままで眩しい」など10の仮想シナリオを提示し、その状況において感じるであろう怒りと取りうる攻撃的な行動(例えば、報復としてのハイビームやUターンしての追跡など)、さらに相手の行為にどの程度悪意があるかの認知(悪意の認知)を尋ねた。回帰分析を行った結果、ダークトライアド傾向や車への装飾の程度の影響は有意でなかったが、悪意の認知が強いほど運転中の怒りが強くなり、運転中の怒りが強いほど攻撃的な運転行動を選択しやすいことが明らかになった。また、シナリオごとに見ると、その種類の違いに関わらず、悪意の認知と運転中の怒りには中程度の正の相関があったが、「沿道の駐車場から車が急に飛び出してくる」シナリオや「高速道路を走行中、先行車が意味もなく車線変更を繰り返す」シナリオでは相関が弱くなった。

調査IIでは、ダークトライアドの中でも特にナルシシズム傾向に注目し、また調査IIに引き続いて車への愛着と悪意の認知が攻撃的な運転に与える影響を検討した。運転免許を保有し、月に1回以上運転し、家族または自分名義で車を所有する391人(男性205人、女性183人、回答しない3人)に対してオンライン調査を行った。アンケート項目としては調査Iと同様に年齢、性別、運転歴、運転頻度といった個人属性の他、車の主な使用者、購入時の状態、車体色、車種を尋ねた上で、その車への愛着を尋ねた。また心理特性としてナルシシズム傾向、8つの仮想シナリオにおける攻撃的な行動と怒り、悪意の認知を尋ねた。まず自分自身で車を使用する人とそうではない人で、車の愛着を従属変数とするt検定を行った結果、車を自分自身で使用している人ほど車への愛着が有意に高かったが、その差はわずかなものであった。共分散構造分析の結果、低い自己肯定感や承認欲求で定義されるナルシシズム(脆弱型ナルシシズム)は悪意の認知と運転中の怒りを通して攻撃的な運転に影響する一方で、高い自己肯定感や自己誇大感で定義されるナルシシズム(誇大型ナルシシズム)は悪意の認知や運転中の怒りを通さずに攻撃的な運転に直接影響することが明らかとなった。また、各シナリオにおいて選択肢となった行動の攻撃性を評価させた結果から、アメリカで行われた先行研究とは異なり、日本では車外の他者にも怒り感情が伝わる可能性があるジェスチャーや表情に苛立ちを出すよりも、車外にまでは届きにくい言葉で怒りを表現する方が攻撃的ではないと判断されることが分かった。

以上を踏まえて、他者の危険な行為や不愉快な行為が眼前で生じて、相手が故意にやったと思うのではなく、偶然起こってしまったことだと解釈するような物事の見方を変化させるトレーニングやイライラした時に気持ちを落ち着ける対処法の獲得が望まれる。(安全行動学)